

福島から未来の医療をつくる-災害医療・教育・地域医療の最前線-

TOPIC

「次なる危機」に、私たちはどう立ち向かうか。 ～専門組織が変える複合災害への対応能力



実践型訓練を通じ、原子力災害時の即応力とチーム連携の実効性を検証

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から15年。未曾有の複合災害を経験した福島県立医科大学は、その教訓を風化させることなく、原子力災害医療の国家拠点として「恒久的な備え」を構築し続けています。

原子力規制委員会から指定を受けた中核組織として、いかにして全国の即応力を高め、地域医療の安心を支える専門人材を育てているのか。本学が進める実践的な研修と、組織変革の最前線を追いました。

実践が生む即応力:

原子力災害医療派遣チーム研修

令和8年2月15日、震災当時に最前線に対応にあたった南相馬市立総合病院を会場に、「令和7年度第2回原子力災害医療派遣

チーム研修」を実施しました。

本研修は、原子力災害時に派遣される医療チームの即応力と連携体制の実効性を検証する実践型研修として平成29年度に開始され、今回で延べ18回を数えます。

当日は福島、茨城、神奈川、新潟、静岡の5県から、医師、看護師、診療放射線技師、事務職員ら18名が参加しました。

参加者は防護装備を着用した状態で、被ばくした傷病者の受け入れや治療、優先度を判断するトリアージなどのシミュレーション訓練に臨み、放射線測定機器の運用や現場連携の手順を詳細に確認しました。

全職員で備える放射線災害医療 院内セミナーで実践力を強化

また、通常業務の一環として「院内被ば

災害対応の 経験を活かした 専門体制の構築

「自助」「共助」「公助」で 支える危機管理

く医療セミナー」を継続的に開催しています。平成29年度の開始以来、これまでに延べ1,000名を超える職員が受講しました。令和7年度事業としても、令和8年2月3日を皮切りに計3回のセミナーを実施しています。防護衣の着脱やシミュレーションを通じ、全職員が放射線災害を「自分の問題」として捉え、迅速かつ適切に医療を提供できる体制を構築しています。

長谷川有史災害医療部長は、「こうした専門組織による継続的な教育研修で育成された人材こそが、災害時に県民が安心して医療を受けられる体制の礎となる。本学は原子力災害医療の中核拠点として、今後も福島の教訓を次世代と全国へつなぐ責務を果たしていく」と述べています。

TOPIC

AIが拓く看護研究の新領域 - OpenPoseとChatGPTの可能性 -

2026年2月9日(月)、看護学部8号館N301において、看護学部学術委員会学外学術交流推進小委員会の企画による講演会「AIの概論から看護研究へ-OpenPoseとChatGPTが拓く新たな可能性-」を開催しました。

講師には、千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科の東辻朝彦先生をお招きしました。東辻

先生は、看護学と情報工学の知見を背景にAIを研究に積極的に活用されている若手研究者です。

AIの基礎概念から看護研究への応用まで幅広くご講演いただき、特にOpenPoseを用いた心不全患者の歩行姿勢解析による評価指標の検討や、看護教育を支援するAIエージェントの開発など、具体的な研究事例をご紹介いただき

ました。

AIへの関心が高まるなか、本講演は看護研究の新たな可能性を探る貴重な機会となり、参加者にとって大きな刺激となりました。アンケートでは「AIを研究に取り入れる可能性を感じた」といった感想が多く寄せられ、参加者の高い関心度がうかがえました。



豪雪の只見町と大学病院を結ぶ地域医療オンライン診療 ～遠隔でも専門医療を届ける新たな仕組み

会津医療センターでは、令和8年2月18日より、只見町国民健康保険朝日診療所と連携したオンライン診療を開始しました。

只見町は日本で有数の豪雪地帯として知られ、冬季には交通事情などにより医療機関へのアクセスが難しくなる地域です。

豪雪地域における医療アクセス向上を目指す

本取り組みでは、只見町にお住まいの方が朝日診療所を受診すると、会津医療センターの医師がセンター内から安全な通信回線を通じて接続し、画面越しに診察を行います。

診療の際には現地の看護師が同席し、医師の指示のもと診療補助や必要な処置を行います。

また、単なるビデオ通話による診療ではなく、会津医療センターの医師が朝日診療所の電子

カルテに直接アクセスし、診療記録の入力から処方・検査の指示までを一体的に行う仕組みです。

血液検査などの基本的な検査は現地で実施できるため、会津若松市から車で約1時間半を要する地域にしながら、大学病院の医師による専門的な診察を受けることが可能となりました。

開始初日は3名の患者さんを診察し、大きなトラブルもなく終了しました。受診された方からは「説明がわかりやすい」「安心して受診できた」といった声も寄せられています。

本取り組みは年間を通じて安定的に運用し、将来的には医師不在時や災害時にも診療機能を維持できる体制へと発展させていくことを目指しています。

今後も地域の皆さまが身近な場所で安心して専門的医療を受けられる環境づくりに取り組

み、会津地域の医療提供体制の充実に貢献していきます。



画面越しに医師の専門的な診察を受ける患者さん



冬季の移動が難しくなる、国内有数の豪雪地帯である只見町

先輩が語る、リアルなキャリア ~看護学部 在校生・卒業生交流会

令和8年2月27日(金)、看護学部在校生と卒業生の交流会を開催しました。

本交流会は、在校生のキャリア形成を支援することを目的に、卒後数年の卒業生と直接交流できる機会として毎年企画しているものです。

今年には在校生27名、卒業生7名が参加しました。特に3年生にとっては、就職や進学など将来の進路について考える大切な時期でもあり、卒業生から実際の経験を聞くことで、今後の自身の将来像を見つめ直す機会となったよ

うでした。

会場では、在校生が卒業生と穏やかに語り合いながら、「進路の実際を聞くことができ本当に良かった」と新たな気持ちで帰路につく姿が見られました。

一方、卒業生からは「久しぶりに大学に来られて懐かしい」とエレベーターホールを見回す様子や、「まだ業務が残っているので、帰ります」と白衣姿で颯爽と病棟へ戻っていく姿も見られ、世代を越えた温かな交流の時間となりました。

看護学部では、今後も在校生と卒業生が交流できる機会を設け、学生一人ひとりのキャリア形成を支援していきます。



卒業生7名を囲み、27名の在校生が将来を語り合った温かな交流の時間

第10回ふくしま県民公開大学

放送局 放送時間
福島放送 20:56~21:00



各回の講師とテーマ

- 放送済** 第1回 講師 疫学講座 江口依里 様
2月17日(火) テーマ「東日本大震災後の笑いと生活習慣病との関連 ~福島県県民健康調査より~」
- 放送済** 第2回 講師 ふくしま国際医療科学センター 先端臨床研究センター 志賀哲 様
2月24日(火) テーマ「福島県立医科大学の新しい放射性薬開発について」
- 放送済** 第3回 講師 白河厚生総合病院 初期研修医 川島 萌 様
3月10日(火) テーマ「大規模災害の災害関連死の減少対策について」
- 第4回 講師 こころの健康度・生活習慣に関する調査支援室 堀越直子 様
3月17日(火) テーマ「『県民健康調査』こころの健康度・生活習慣に関する調査」

今年度も前年度同様、全4回シリーズのテレビ番組放送として開催します。

右記日程で放送予定ですので、皆様是非ご覧ください。

なお、リアルタイムでの視聴ができない方、福島県以外の方へ向けて、番組放送後にYouTube動画配信を予定しています。

※放送時間及びテーマについては、一部変更となる場合がございます。